

ニュースレター

No.58

発行/NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
事務局/〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
稲城市地域振興プラザ 1F
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
E-mail info@i-inagi-support.org
http://www.i-inagi-support.org/

大丸を支える笑顔 婦人会



JR 南多摩駅前のまちびらきから一年余り。秋には大型ビジネスホテルがオープンするなど新しい街づくりが進む大丸地区で、今年も大丸用水れんげまつりが開催されました。

昔懐かしいれんげ畑の景色を復活させ、稲城の貴重な文化遺産である大丸用水とともに永く後世へ伝えていきたい、という地域の方々の思いから始まったれんげまつり。大丸自治会をはじめ大丸囃子保存会、青少年育成大丸地区委員会（青少育）、稲城第六小学校の児童や六小ダディーズ（親父の会）など大丸を拠点に活動する団体が模擬店やステージパフォーマンスで盛り上げる、地域挙げての一大イベントです。

今年で5回目を迎え、今や市外や他県からもれんげ畑を楽しみに訪れるお祭りに成長しました。

その賑やかな会場の一角で、お揃いのイエローシャツ、赤いバンダナ・エプロン姿に身を包み、手作りのとん汁、ポップコーン、玉こんにゃくを提供していたのが、今年70周年を迎えた大丸婦人会の皆さん。オープニングの「稲城繁盛節」では、ライトグリーンのジャンパーを着て、普段踊りを教えている青少育のお母さんや子どもたちなど地域の人をリードしながら楽しく踊りました。

今回は大丸婦人会を中心に、大丸地区の皆さんの活動をご紹介します。





婦人会 明るく楽しく 70年



地域のお母さんとして



大丸婦人は、戦後間もない昭和 23 年、稲城村婦人会大丸支部として誕生しました。「大丸にはその頃、外地よりの引揚者の寮もあり、大丸在住の婦人には知識所有者もまじりあって、戦後の新しい風が入って来た頃でもあった。敬老会を始め、農繁期には託児所も開き、役場より先取りして婦人は活動を展開したのであった。これが住民主導の福祉活動であった」(「大丸婦人会五十年のあゆみ」より)。

当時は、上記のような活動のほか家庭教育に関する読書会、文章や家計簿の勉強会、講習や研修会など、「家庭を守り子どもを守り、自己実現も図る」研鑽を重ねていました。それとともに共同募金や赤十字募金、地域の美化活

動、女性の健康・福祉の向上といった社会貢献活動にも積極的に取り組み、やがて地域の運動会や住民会議への参画、サークル活動の経験を生かした盆踊りの指導や神社お祭りへの出演などを通して、大丸地域になくってはならない存在になっていきました。

今では、100人以上の高齢者を招く「さくらを観る会」、昭和 50 年代から続く「お月見会」、市長や地元選出の議員をはじめ多くの来賓も参加する「新年会」(上写真参照)等の恒例行事に加えて、元旦祭、多摩川清掃、盆踊り、秋祭り、運動会など、自治会や神社奉賛会、青少育、学校関係など地域の団体が主催する行事にも積極的に協力しており、まさに大丸地区の皆さんがたのみにする「頼れるお母さん」役を務めています。



大丸自治会と大丸婦人は月一回の大丸用水清掃を続けています。「掃除をするのと同じくらい時間おしゃべりするの楽しい」というのが長続きの秘訣？



稲城消防署から講師を招いての防災講座も開催。いつ起こるか分からない大震災に備えて、少しずつ勉強しています



楽しくも厳しい「踊りサークルすみれ」の練習



来年で 20 年になる習字サークル



初めて中央文化センターホールの舞台上で踊りました！



何より楽しみな おしゃべりタイム

友だちが財産

現在の大丸婦人会は、定例役員会や大丸用水の清掃を毎月行い、サークル活動（「踊りサークルすみれ」「習字サークル」）を月 2 回ずつ行っているの、会員の皆さんは週 1 回は顔を会わせているそうです。

「清掃でもサークルでも、それをやっている時間と同じくらいみんなでおしゃべりに花を咲かせるのが楽しい」と参加する会員さんは言います。お茶を飲みながらのリラックスタイムは自由自在に話題が移り変わって、傍で聞いていると話についていくのが大変なほど。

「婦人会に入っていなかったら、日中、家に一人でポツンといて笑うこともなく寂しかったと思いますが、ここに来ればみんなに会えて色々なことをやったり話したりできます」、「稲城にお嫁に来たころは知り合いもいなかったが、婦人会に入ってみんなと友達になれて良かった」と、会員さんは異口同音に婦人会の楽しさを語ります。

70 年の間に時代や社会は移り変わっても、人を楽しくさせるのは友だちであり、楽しいからこそ婦人会の活動も長く続いてきたのでしょう。

大丸婦人会では、7 月から骨折等を予防するための転倒防止体操の活動も始めるそうで、ますます人の和、友だちの輪が広がっていくようです。

(文責：種田匡延)



大丸野草の会

身近な里山の保全と、そこに自生する山野草を保護・育成する活動をしている「大丸野草の会」は、大丸婦人会を母体として発足しました。

婦人会から独立した現在は、男性や大丸以外の地区からの参加者もいて、12 名の会員が城山にある野草園の手入れ（月 1 回）や総合体育館ロビーでの野草展（年 2 回）、野草園での「カタクリ祭」（毎年 3 月）などを行っています。

野草談義や情報交換など、植物に興味がある方には格好のグループです。

○問い合わせ：代表 芦川 繁さん

TEL・FAX 042-377-5633

市民活動支援基金による 今年度の助成団体

この助成金の原資は、賛同する個人の寄付や団体からの資金提供（冠助成）で賄っており、サポートセンターはその審査事務を担っています。応募できる団体は、サポートセンターに利用登録している団体のみです。審査の結果、今年度は次の2団体に助成することが決まりました。

(① = 助成の種類、② = 助成額、③ = 基金の資金提供元、④ = 活動内容等)

東京稲城里山義塾 (代表 宇津木敏さん)

①ステップアップ助成、② 50,000 円、③サポートセンター市民活動基金、④法人が所有する「竜谷戸の森」を拠点として、子どもから大人までを対象に、里山での遊び体験や音楽会、木工クラブ製作、土器づくりなどのワークショップを企画。その拠点施設の整備費用に充てる。

いなぎ草の根文化サロン (代表 稲田善樹さん)

①スタート助成、② 50,000 円、③ NPO《こどもの森》芸術文化振興基金、④市内の草の根文化の振興と支援を目的に 2012 年に発足。今年度は明治 150 年に寄せて、稲城の先人の功績を語り継ぐ企画として「窪全亮と奚疑塾に学ぶ」を開催する予定で、その費用に充てる。

2018 年度の年間事業計画

	月											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
I. 市民活動相互交流事業												
市民活動フォーラム 2018											○	
市民活動団体との協働事業		●										〈随 時 実 施〉
金曜サロンスペシャル	●		●	○		○	○	○	○	○	○	○
II. 市民活動に関する情報収集及び提供事業												
ニュースレターの発行				●				○				○
ホームページ・ブログ												〈随 時 更 新〉
III. 市民活動支援及び相談事業												
NPO 講座												〈未 定〉
市民活動支援講座												〈未 定〉
市民活動支援基金		●										〈今年度は決定済み〉
講師派遣・相談事業												〈随 時 実 施〉
IV. 市民活動の調査研究とこれに基づく政策提言事業												
ちやぶ台キャラバン事業												〈随 時 実 施〉
V. 市民活動団体や行政及び企業との協働事業												
手づくり市民まつりへの参加		●										
Iのまちいなぎ市民祭への参加									○			
行政との協働企画講座												○
VI. センターの設備及び機器の利用提供事業												
ミーティングコーナー												〈通 年〉
印刷機等の利用												〈通 年〉
図書の間覧及び貸出し等												〈通 年〉

●は、すでに終わっている事業です。

○は「新年の夢を語り合う会」で、利用登録団体懇談会を兼ねて開催します。

おしゃまします

ママごこち

家庭をもつママさんたちが、それぞれの特技や趣味をいかしたマルシェを年 4 回ほど開催して、居心地のいいコミュニティ空間をつくり出しています。

会場には手作りのアクセサリや生活雑貨の販売ブースやワークショップ、カラーセラピーやリラクゼーションマッサージなど、日ごろ子育てや家事、仕事に忙しいママたちが楽しみ安らげるブースが並んでいます。

2011 年に活動を始めて今年で 7 年目になりますが、主催する 4 人の顔ぶれが変わらず続いている数少ないグループで、商業目的というよりは「自分らしくいられる居心地のいい場所づくり」を最も大切にしているそうです。

7 年続いているので、出店者もお客さんも仲良しな関係ができていますが、それが内輪受けになっていないので、初めて来ても「また来たい、友だちも連れて来たい」という人が多く、最初はお客さんで来た人が出店者として参加することもあるのだとか。



5月30日、稲城市立iプラザ実習室(若葉台)にて

稲城もマルシェやイベントを開催する団体が増えてきましたが、その中でママごこちの強み、存在価値は何かを考えていったところ、「自分らしさを発揮できる場、自分らしくいられる場であり続けること」という結論に達したようで、今後も互いに共感できる仲間を増やしていくとともに、誰にでもオープンで安らげる「ママごこち」であり続けることを目指しています。

○次回開催日などママごこちの情報は Facebook ページからどうぞ(「ママごこち」で検索)。